

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保健体育Ⅱ（科学的思考の 基盤・人間と生活）		柔道整復学科/2年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	大城 徹
授業の概要				
スポーツに携わる者が知っておくべき基礎知識について学ぶ。様々なトレーニング方法がもたらす効果を理解し、目的に応じてトレーニング方法を選択し、処方できるようになる。				
授業終了時の到達目標				
スポーツに携わる者が知っておくべき基礎知識について学ぶ。様々なトレーニング方法がもたらす効果を理解し、目的に応じてトレーニング方法を選択し、処方できるようになる。				
回	テーマ	内容		
1	保健体育Ⅱ 1	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成		
2	保健体育Ⅱ 2	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成		
3	保健体育Ⅱ 3	ウォームアップ、柔軟性トレーニングの理論		
4	保健体育Ⅱ 4	ウォームアップ、柔軟性トレーニングの理論		
5	保健体育Ⅱ 5	特別な対象のトレーニングとプログラム		
6	保健体育Ⅱ 6	特別な対象のトレーニングとプログラム		
7	保健体育Ⅱ 7	傷害の受傷から復帰までのトレーニング		
8	保健体育Ⅱ 8	傷害の受傷から復帰までのトレーニング		
9	保健体育Ⅱ 9	トレーニング効果の測定と評価の実際		
10	保健体育Ⅱ 10	測定データの活用とフィードバック		
11	保健体育Ⅱ 11	トレーニングの運営		
12	保健体育Ⅱ 12	トレーニングの運営		
13	保健体育Ⅱ 13	運動指導のための情報収集と活用		
14	保健体育Ⅱ 14	運動指導のための情報収集と活用		
15	保健体育Ⅱ 5	期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		確認テスト	100.0%	確認テストに出席率なども含む。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅱ (人体の構造と機能)		柔道整復学科/2年	2023/通年	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	34回	4単位 (68時間)	必須	宮崎 刀一 歯科医院にて従事

## 授業の概要

柔道整復師となるにあたって必要な解剖学、すなわち人体の構造の知識を得ることを目的とする。十分な演習を通じ知識の定着を計る。

## 授業終了時の到達目標

柔道整復師となるにあたって必要な解剖学の知識を得ることを目的とする。十分な演習を通じ知識の定着を計る。国家試験に対応できる力を2年生のうちから養うことを目標とする。

回	テーマ	内容
1	解剖学概論	細胞小器官 DNA RNA
2	骨	骨学
3	筋	筋学
4	呼吸器系	肺、気管支、呼吸の仕組み
5	消化器系総論	消化器系総論
6	消化器系各論	消化器系各論
7	消化器系まとめ	消化器系全般
8	脈管系総論	心臓、循環
9	脈管系各論	主要な動脈、静脈
10	脈管系まとめ	脈管系全般
11	泌尿器系総論	腎臓、尿管、膀胱
12	泌尿器系各論	泌尿器全般
13	生殖器系総論	男性生殖器、女性生殖器
14	内分泌系総論	内分泌系
15	内分泌系各論	ホルモンの作用

回	テ ー マ	内 容		
16	期末試験	試験		
17	試験解説	まとめ、解説		
18	神経総論	神経総論 中枢神経 ニューロン		
19	神経各論	神経各論 末梢神経		
20	神経まとめ	神経全般		
21	骨学演習	骨学		
22	筋学演習	筋学		
23	呼吸器演習 1	呼吸器		
24	呼吸器演習 2	呼吸器		
25	消化器演習 1	消化器		
26	消化器演習 2	消化器		
27	泌尿器演習	泌尿器		
28	生殖器演習	生殖器		
29	内分泌演習 1	内分泌器		
30	内分泌演習 2	ホルモンの役割		
31	神経演習 1	神経		
32	神経演習 2	神経		
33	期末試験	試験		
34	解説	試験解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
解剖学 第2版 医歯薬出版		中間試験 期末試験	30.0% 70.0%	期末試験、出席率、授業態度を総合的に判定する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生理学Ⅱ (人体の構造と機能)		柔道整復学科/2年	2023/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	34回	4単位(68時間)	必須	尾尻 義彦
授業の概要				
生体(人体)の各系統における基本的な機能を理解する。 授業進行に応じて、適宜中間試験を実施する。				
授業終了時の到達目標				
生体(人体)の各系統における基本的な機能を説明できるようになること。				
回	テーマ	内 容		
1	6 内分泌	A 内分泌腺とホルモン		
2	6 内分泌	A 内分泌腺とホルモン		
3	6 内分泌	B それぞれの内分泌腺とホルモンのはたらき		
4	6 内分泌	B それぞれの内分泌腺とホルモンのはたらき		
5	6 内分泌	C ホルモンによる内部環境の恒常性維持		
6	6 内分泌	C ホルモンによる内部環境の恒常性維持		
7	7 生殖	A 性分化 B 男性生殖器		
8	7 生殖	C 女性生殖器		
9	7 生殖	D 妊娠と分娩		
10	8 血液	A 血液の成分と組成		
11	8 血液	B 止血		
12	8 血液	C 血液型		
13	8 血液	D 免疫		
14	8 血液	D 免疫		
15	9 骨の生理	A 骨の構造		

回	テーマ	内 容		
16	9 骨の生理	B 骨の成長		
17	中間試験			
18	10 循環	A 心臓		
19	10 循環	A 心臓		
20	10 循環	B 血管		
21	10 循環	B 血管		
22	10 循環	C リンパ系		
23	10 循環	D 循環調節		
24	11 呼吸の生理	A 呼吸器系の構造 B 換気		
25	11 呼吸の生理	C ガス交換と運搬		
26	11 呼吸の生理	D 呼吸周期の調節		
27	12 尿の生成と排泄	A 腎臓の構造と機能		
28	12 尿の生成と排泄	B 尿の生成 C 腎血流量		
29	12 尿の生成と排泄	D 排尿 E 腎臓による体液の調節		
30	13 栄養と代謝	A 生体に必要な栄養素		
31	13 栄養と代謝	B エネルギー代謝		
32	13 栄養と代謝	C 栄養素の代謝		
33	13 栄養と代謝	D 食物と栄養		
34	期末試験			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
生理学 改訂第4版 公益社団法人全国柔道整復学学校協会監修 波末一之編集 南江堂		中間試験 期末試験	40.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動学 I (人体の構造と機能)		柔道整復学科/2年	2023/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	34回	4単位(68時間)	必須	関矢 政之
授業の概要				
運動系の解剖生理学の基礎を学び総合的な理解を深めることを目的とする。				
授業終了時の到達目標				
運動系の解剖生理学の基礎を学び総合的な理解を深めることを目的とする。				
回	テーマ	内容		
1	運動学 I 1	ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明		
2	運動学 I 2	運動学の目的		
3	運動学 I 3	運動の表し方		
4	運動学 I 4	身体運動と力学(バイオメカニクスの基礎)		
5	運動学 I 5	身体運動と力学(バイオメカニクスの基礎)		
6	運動学 I 6	身体運動と力学(運動・トレーニング時のバイオメカニクス)		
7	運動学 I 7	身体運動と力学(運動・トレーニング時のバイオメカニクス)		
8	運動学 I 8	運動器の構造と機能		
9	運動学 I 9	運動器の構造と機能		
10	運動学 I 10	運動器の構造と機能		
11	運動学 I 11	運動感覚		
12	運動学 I 12	運動感覚		
13	運動学 I 13	反射と随意運動		
14	運動学 I 14	反射と随意運動		
15	運動学 I 15	反射と随意運動		

回	テ ー マ	内 容		
16	運動学 I 16	前期期末試験		
17	運動学 I 17	解答・解説		
18	運動学 I 18	上肢帯の運動		
19	運動学 I 19	上肢帯の運動		
20	運動学 I 20	肩関節の運動		
21	運動学 I 21	肘関節の運動		
22	運動学 I 22	手関節と手の運動		
23	運動学 I 23	手関節の手の運動		
24	運動学 I 24	股関節の運動		
25	運動学 I 25	膝関節の運動		
26	運動学 I 26	足関節の足部の運動		
27	運動学 I 27	足関節と足部の運動		
28	運動学 I 28	足関節と足部の運動		
29	運動学 I 29	体幹と脊柱の運動		
30	運動学 I 30	頸椎の運動		
31	運動学 I 31	胸椎と胸郭の運動		
32	運動学 I 32	腰椎、仙椎および骨盤の運動		
33	運動学 I 33	後期期末試験		
34	運動学 I 34	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 運動学		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
病理学概論 (疾病と障害)		柔道整復学科/2年	2023/通年	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	34回	4単位 (68時間)	必須	富田 秀司

## 授業の概要

疾病の成り立ちを学ぶことは柔道整復師に必須の学習である。多彩な問題演習を通じ病理学の知識を習得させる。

## 授業終了時の到達目標

疾病の成り立ちを学ぶことは柔道整復師に必須の学習である。多彩な問題演習を通じ病理学の知識を習得させる。  
国家試験をクリアするのに十分な知識を習得する。

回	テーマ	内容
1	病理学概論	染色、解剖、病理学とは
2	疾病の一般	疾病の種類
3	細胞障害 1	退行性病変
4	細胞障害 2	代謝障害
5	循環障害 1	血液、リンパ
6	循環障害 2	高血圧
7	進行性病変 1	肥大、過形成
8	進行性病変 2	再生、移植
9	炎症 1	炎症の一般
10	炎症 2	炎症の分類
11	炎症 3	演習
12	免疫異常	免疫のしくみ
13	アレルギー	自己免疫疾患、アレルギー
14	免疫異常アレルギーまとめ	演習
15	前期まとめ	前期まとめ



回	テ ー マ	内 容		
16	定期試験	定期試験		
17	試験解説	試験解説		
18	腫瘍 1	腫瘍の概念		
19	腫瘍 2	腫瘍の分類		
20	腫瘍 3	腫瘍各論		
21	腫瘍 4	腫瘍まとめ		
22	先天性異常 1	総論		
23	先天性異常 2	奇形		
24	先天性異常 3	遺伝子		
25	先天性異常 4	演習		
26	病因 1	外因		
27	病因 2	内因		
28	病因 3	病因各論		
29	病因 4	物理的外因		
30	病因 5	化学的外因		
31	病因 6	生物的外因		
32	総まとめ	総まとめ		
33	定期試験	定期試験		
34	解説授業	解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
病理学概論 第3版 医歯薬出版		中間試験 期末試験	30.0% 70.0%	定期試験、出席率、授業態度を総合的に評価する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
一般臨床医学Ⅰ（疾病と障害）		柔道整復学科/2年	2023/通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	34回	4単位（68時間）	必須	富田 秀司

## 授業の概要

一般的に内科学で扱われる日常臨床医学の基礎を総論で学び、各論では疾患の定義、原因、症状、検査、治療、予後などを、臨床の場において多い代表的な疾患について学習する。

## 授業終了時の到達目標

一般的に内科学で扱われる日常臨床医学の基礎を総論で学び、各論では疾患の定義、原因、症状、検査、治療、予後などを、臨床の場において多い代表的な疾患について学習する。

回	テーマ	内容
1	一般臨床医学Ⅰ 1	ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明
2	一般臨床医学Ⅰ 2	診察の意義、進め方
3	一般臨床医学Ⅰ 3	医療面接
4	一般臨床医学Ⅰ 4	視診：指針の意義と方法
5	一般臨床医学Ⅰ 5	視診：異常運動
6	一般臨床医学Ⅰ 6	視診：頸部の視診
7	一般臨床医学Ⅰ 7	打診
8	一般臨床医学Ⅰ 8	聴診
9	一般臨床医学Ⅰ 9	生命徴候
10	一般臨床医学Ⅰ 10	感覚検査
11	一般臨床医学Ⅰ 11	反射検査
12	一般臨床医学Ⅰ 12	代表的な臨床症状
13	一般臨床医学Ⅰ 13	代表的な臨床症状
14	一般臨床医学Ⅰ 14	検査法
15	一般臨床医学Ⅰ 15	呼吸器疾患

回	テ ー マ	内 容		
16	一般臨床医学 I 16	前期期末試験		
17	一般臨床医学 I 17	解答・解説		
18	一般臨床医学 I 18	呼吸器疾患		
19	一般臨床医学 I 19	循環器疾患		
20	一般臨床医学 I 20	循環器疾患		
21	一般臨床医学 I 21	消化器疾患		
22	一般臨床医学 I 22	代謝疾患		
23	一般臨床医学 I 23	内分泌疾患		
24	一般臨床医学 I 24	血液・造血器疾患		
25	一般臨床医学 I 25	腎・尿路疾患		
26	一般臨床医学 I 26	神経疾患		
27	一般臨床医学 I 27	感染症		
28	一般臨床医学 I 28	リウマチ・膠原病・アレルギー		
29	一般臨床医学 I 29	環境要因による疾患		
30	一般臨床医学 I 30	生活習慣病とその予防		
31	一般臨床医学 I 31	生活習慣病とその予防		
32	一般臨床医学 I 32	総復習		
33	一般臨床医学 I 33	後期期末試験		
34	一般臨床医学 I 34	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
一般臨床医学		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
整形外科学 (疾病と障害)		柔道整復学科/2年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	17回	2単位 (34時間)	必須	富田 秀司
授業の概要				
運動器の基礎知識と診察法、種々の検査法、治療法、スポーツ整形外科、リハビリテーションならびに各疾患別各論と身体部位別疾患について整形外科領域の専門的知識の修得を目的とする。				
授業終了時の到達目標				
運動器の基礎知識と診察法、種々の検査法、治療法、スポーツ整形外科、リハビリテーションならびに各疾患別各論と身体部位別疾患について整形外科領域の専門的知識の修得を目的とする。				
回	テーマ	内容		
1	整形外科学 1	運動器の基礎知識		
2	整形外科学 2	整形外科診察法		
3	整形外科学 3	整形外科検査法・整形外科的治療		
4	整形外科学 4	骨・関節損傷総論		
5	整形外科学 5	外傷と障害		
6	整形外科学 6	感染性疾患		
7	整形外科学 7	軟部腫瘍・軟部疾患		
8	整形外科学 8	全身性の骨・骨端症		
9	整形外科学 9	神経麻痺と絞扼性神経障害		
10	整形外科学 0	頸部・胸部		
11	整形外科学 1 1	肩甲帯および上肢の疾患		
12	整形外科学 1 2	上腕・肘関節・前腕・手・手指		
13	整形外科学 1 3	骨盤・股関節		
14	整形外科学 1 4	大腿・膝関節		
15	整形外科学 1 5	下腿・足関節・足・足趾		
16	整形外科学 1 6	期末試験		
17	整形外科学 1 7	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
整形外科学		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
外科学概論 (疾病と障害)		柔道整復学科/2年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	17回	2単位 (34時間)	必須	富田 秀司
授業の概要				
外科学の基礎となる総論的な事項とともに、日常の臨床の場において遭遇することの多い代表的な外科疾患を学ぶ。さらに実用的な内容にも触れ適切な治療ができるような知識を身につける。				
授業終了時の到達目標				
外科学の基礎となる総論的な事項とともに、日常の臨床の場において遭遇することの多い代表的な外科疾患を学ぶ。さらに実用的な内容にも触れ適切な治療ができるような知識を身につける。				
回	テーマ	内容		
1	外科学概論 1	損傷の分類		
2	外科学概論 2	創傷の処置と感染予防・熱傷 原因と分類		
3	外科学概論 3	炎症・外科感染症		
4	外科学概論 4	腫瘍 概念・悪性腫瘍の種類		
5	外科学概論 5	症状・診断・治療		
6	外科学概論 6	循環血液量異常によるショック		
7	外科学概論 7	輸血・一般輸液・高カロリー輸液		
8	外科学概論 8	手術の準備・主な消毒薬と特徴		
9	外科学概論 9	麻酔 概要・全身麻酔の手技		
10	外科学概論 10	移植の用語		
11	外科学概論 11	出血と止血		
12	外科学概論 12	救急処置 (止血・心肺蘇生法の手順)		
13	外科学概論 13	脳神経外科疾患・甲状腺・頸部疾患		
14	外科学概論 14	心臓・脈管疾患		
15	外科学概論 15	腹部外科疾患・乳腺疾患		
16	外科学概論 16	期末試験		
17	外科学概論 17	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
外科学概論		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション医学 (疾病と障害)		柔道整復学科/2年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	17回	2単位(34時間)	必須	関矢 政之
授業の概要				
患者の持つあらゆる障害に対処していかなければならないリハビリテーション医学は、その需要がさらに広がっている。広い知識を身に付け社会の要請に応じられるような知識の修得を目指す。				
授業終了時の到達目標				
患者の持つあらゆる障害に対処していかなければならないリハビリテーション医学は、その需要がさらに広がっている。広い知識を身に付け社会の要請に応じられるような知識の修得を目指す。				
回	テーマ	内容		
1	リハビリテーション医学1	運動学と機能解剖		
2	リハビリテーション医学2	障害学・治療学		
3	リハビリテーション医学3	患者のとらえ方・身体計測		
4	リハビリテーション医学4	中枢性運動障害の評価法		
5	リハビリテーション医学5	協調性テスト・日常生活動作の評価		
6	リハビリテーション医学6	理学療法・補装具・言語治療		
7	リハビリテーション医学7	脳卒中		
8	リハビリテーション医学8	脊髄損傷		
9	リハビリテーション医学9	小児疾患		
10	リハビリテーション医学10	切断・末梢神経損傷		
11	リハビリテーション医学11	関節リウマチ・整形外科疾患		
12	リハビリテーション医学12	心疾患・呼吸器疾患		
13	リハビリテーション医学13	老人のリハビリテーション		
14	リハビリテーション医学14	福祉		
15	リハビリテーション医学15	アスレティックリハビリテーション		
16	リハビリテーション医学16	後期期末試験		
17	リハビリテーション医学17	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
リハビリテーション医学		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
柔道実技Ⅱ（保険医療福祉と柔道整復の理念）		柔道整復学科/2年	2023/通年	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	34回	2単位（68時間）	必須	大久保 博臣 接骨院にて従事
授業の概要				
柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。				
授業終了時の到達目標				
柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。				
回	テーマ	内容		
1	柔道実技Ⅱ1	内股		
2	柔道実技Ⅱ2	浮落 投込		
3	柔道実技Ⅱ3	背負投 投込		
4	柔道実技Ⅱ4	肩車 投込		
5	柔道実技Ⅱ5	浮腰 投込		
6	柔道実技Ⅱ6	払腰 投込		
7	柔道実技Ⅱ7	釣込腰 投込		
8	柔道実技Ⅱ8	送足払 投込		
9	柔道実技Ⅱ9	支釣込足 投込		
10	柔道実技Ⅱ10	内股 投込		
11	柔道実技Ⅱ11	復習		
12	柔道実技Ⅱ12	復習		
13	柔道実技Ⅱ13	約束乱取		
14	柔道実技Ⅱ14	約束乱取		
15	柔道実技Ⅱ15	袈裟固めなど		

回	テ ー マ	内 容		
16	柔道実技Ⅱ16	袈裟固めなど		
17	柔道実技Ⅱ17	前期期末試験		
18	柔道実技Ⅱ18	投の形、約束乱取		
19	柔道実技Ⅱ19	投の形、約束乱取		
20	柔道実技Ⅱ20	投の形、約束乱取		
21	柔道実技Ⅱ21	投の形、約束乱取		
22	柔道実技Ⅱ22	投の形、約束乱取		
23	柔道実技Ⅱ23	投の形、約束乱取		
24	柔道実技Ⅱ24	投の形、約束乱取		
25	柔道実技Ⅱ25	投の形、約束乱取		
26	柔道実技Ⅱ26	投の形、約束乱取		
27	柔道実技Ⅱ27	投の形、約束乱取		
28	柔道実技Ⅱ28	投の形、約束乱取		
29	柔道実技Ⅱ29	投の形、約束乱取		
30	柔道実技Ⅱ30	投の形、約束乱取		
31	柔道実技Ⅱ31	投の形、約束乱取		
32	柔道実技Ⅱ32	投の形、約束乱取		
33	柔道実技Ⅱ33	投の形、約束乱取		
34	柔道実技Ⅱ34	後期期末試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床柔道整復学Ⅲ (臨床柔道整復学)		柔道整復学科/2年	2023/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	34回	4単位(68時間)	必須	安次嶺 慎一郎 接骨院にて従事
授業の概要				
1年次で学んだ柔整基礎理論を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、高度な専門知識の修得を目指すものである。				
授業終了時の到達目標				
1年次で学んだ柔整基礎理論を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、高度な専門知識の修得を目指すものである。				
回	テーマ	内容		
1	臨床柔道整復学Ⅲ 1	ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明		
2	臨床柔道整復学Ⅲ 2	上肢骨折：鎖骨骨折		
3	臨床柔道整復学Ⅲ 3	上肢骨折：鎖骨骨折		
4	臨床柔道整復学Ⅲ 4	上肢骨折：鎖骨骨折		
5	臨床柔道整復学Ⅲ 5	上肢骨折：肩甲骨骨折		
6	臨床柔道整復学Ⅲ 6	上肢骨折：上腕骨近位端部骨折		
7	臨床柔道整復学Ⅲ 7	上肢骨折：上腕骨近位端部骨折		
8	臨床柔道整復学Ⅲ 8	上肢骨折：上腕骨近位端部骨折		
9	臨床柔道整復学Ⅲ 9	上肢骨折：上腕骨骨幹部骨折		
10	臨床柔道整復学Ⅲ 10	上肢骨折：上腕骨骨幹部骨折		
11	臨床柔道整復学Ⅲ 11	上肢骨折：上腕骨遠位端部骨折		
12	臨床柔道整復学Ⅲ 12	上肢骨折：上腕骨遠位端部骨折		
13	臨床柔道整復学Ⅲ 13	上肢骨折：上腕骨遠位端部骨折		
14	臨床柔道整復学Ⅲ 14	上肢骨折：前腕骨近位端部骨折		
15	臨床柔道整復学Ⅲ 15	上肢骨折：前腕骨近位端部骨折		

回	テ ー マ	内 容		
16	臨床柔道整復学Ⅲ16	前期期末試験		
17	臨床柔道整復学Ⅲ17	解答・解説		
18	臨床柔道整復学Ⅲ18	上肢骨折：前腕骨骨幹部骨折		
19	臨床柔道整復学Ⅲ19	上肢骨折：前腕骨骨幹部骨折		
20	臨床柔道整復学Ⅲ20	上肢骨折：前腕骨骨幹部骨折		
21	臨床柔道整復学Ⅲ21	上肢骨折：前腕骨遠位端部骨折		
22	臨床柔道整復学Ⅲ22	上肢骨折：前腕骨遠位端部骨折		
23	臨床柔道整復学Ⅲ23	上肢骨折：前腕骨遠位端部骨折		
24	臨床柔道整復学Ⅲ24	上肢骨折：手根骨骨折		
25	臨床柔道整復学Ⅲ25	上肢骨折：手根骨骨折		
26	臨床柔道整復学Ⅲ26	上肢骨折：中手骨骨折		
27	臨床柔道整復学Ⅲ27	上肢骨折：中手骨骨折		
28	臨床柔道整復学Ⅲ28	上肢骨折：指骨骨折		
29	臨床柔道整復学Ⅲ29	上肢骨折：指骨骨折		
30	臨床柔道整復学Ⅲ30	上肢骨折：マレットフィンガー		
31	臨床柔道整復学Ⅲ31	上肢骨折：マレットフィンガー		
32	臨床柔道整復学Ⅲ32	総復習		
33	臨床柔道整復学Ⅲ33	後期期末試験		
34	臨床柔道整復学Ⅲ34	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 (理論編)		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	・授業への出席が 3分の2以上を満 たした者について のみ試験等を実施 する。 ・期末試験は授業

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
柔整実技 I (柔道整復実技)		柔道整復学科/2年	2023/通年	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	34回	2単位(68時間)	必須	安次嶺 慎一郎
授業の概要				
1年次で学んだ柔整基礎理論を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、高度な専門知識の修得を目指すものである。				
授業終了時の到達目標				
1年次で学んだ柔整基礎理論を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、高度な専門知識の修得を目指すものである。				
回	テーマ	内 容		
1	柔整実技 I 1	ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明		
2	柔整実技 I 2	脱臼：顎関節脱臼		
3	柔整実技 I 3	脱臼：顎関節脱臼		
4	柔整実技 I 4	脱臼：頸椎脱臼		
5	柔整実技 I 5	脱臼：胸椎脱臼		
6	柔整実技 I 6	脱臼：胸鎖関節脱臼		
7	柔整実技 I 7	脱臼：肩鎖関節脱臼		
8	柔整実技 I 8	脱臼：肩鎖関節脱臼		
9	柔整実技 I 9	脱臼：肩関節前方脱臼		
10	柔整実技 I 10	脱臼：肩関節前方脱臼		
11	柔整実技 I 11	脱臼：肩関節後方脱臼		
12	柔整実技 I 12	脱臼：前腕両骨脱臼		
13	柔整実技 I 13	脱臼：前腕両骨脱臼		
14	柔整実技 I 14	脱臼：橈骨頭単独脱臼		
15	柔整実技 I 15	脱臼：遠位橈尺関節脱臼		

回	テ ー マ	内 容		
16	柔整実技 I 16	前期期末試験		
17	柔整実技 I 17	解答・解説		
18	柔整実技 I 18	脱臼：月状骨脱臼および月状骨周囲脱臼		
19	柔整実技 I 19	脱臼：第1指中手指節関節脱臼		
20	柔整実技 I 20	脱臼：近位指節間関節脱臼		
21	柔整実技 I 21	脱臼：股関節後方脱臼		
22	柔整実技 I 22	脱臼：股関節後方脱臼		
23	柔整実技 I 23	脱臼：股関節前方脱臼・発育性股関節脱臼		
24	柔整実技 I 24	脱臼：膝蓋骨側方脱臼		
25	柔整実技 I 25	脱臼：膝蓋骨側方脱臼		
26	柔整実技 I 26	脱臼：外傷性膝関節脱臼		
27	柔整実技 I 27	脱臼：ショパール・リスフラン関節脱臼		
28	柔整実技 I 28	脱臼：中足、足指部の脱臼		
29	柔整実技 I 29	脱臼：脱臼まとめ		
30	柔整実技 I 30	脱臼：脱臼まとめ		
31	柔整実技 I 31	脱臼：脱臼まとめ		
32	柔整実技 I 32	脱臼：脱臼まとめ		
33	柔整実技 I 33	後期期末試験		
34	柔整実技 I 34	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 (理論編)		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
柔整実技Ⅱ (柔道整復実技)		柔道整復学科/2年	2023/通年	実習
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	34回	4単位 (68時間)	必須	安次嶺 慎一郎

## 授業の概要

医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。

## 授業終了時の到達目標

医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。

回	テーマ	内容
1	柔整実技Ⅱ1	ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明
2	柔整実技Ⅱ2	軟部組織損傷：外傷性顎関節損傷
3	柔整実技Ⅱ3	軟部組織損傷：頭部・顔面部打撲
4	柔整実技Ⅱ4	軟部組織損傷：顎関節症
5	柔整実技Ⅱ5	軟部組織損傷：胸肋関節損傷、肋間筋損傷、胸部・背部打撲
6	柔整実技Ⅱ6	軟部組織損傷：頸部捻挫
7	柔整実技Ⅱ7	軟部組織損傷：胸背部の軟部組織損傷
8	柔整実技Ⅱ8	軟部組織損傷：腰部の軟部組織損傷
9	柔整実技Ⅱ9	軟部組織損傷：腰部の軟部組織損傷
10	柔整実技Ⅱ10	軟部組織損傷：肩部および上腕部の損傷
11	柔整実技Ⅱ11	軟部組織損傷：肩部および上腕部の損傷
12	柔整実技Ⅱ12	軟部組織損傷：肩部および上腕部の損傷
13	柔整実技Ⅱ13	軟部組織損傷：肩部および上腕部の損傷
14	柔整実技Ⅱ14	軟部組織損傷：肘部および前腕部の障害
15	柔整実技Ⅱ15	軟部組織損傷：肘部および前腕部の障害

回	テ ー マ	内 容		
16	柔整実技Ⅱ16	前期期末試験		
17	柔整実技Ⅱ17	解答・解説		
18	柔整実技Ⅱ18	軟部組織損傷：手関節および手指部の障害		
19	柔整実技Ⅱ19	軟部組織損傷：手関節および手指部の障害		
20	柔整実技Ⅱ20	軟部組織損傷：手関節および手指部の障害		
21	柔整実技Ⅱ21	軟部組織損傷：手関節および手指部の障害		
22	柔整実技Ⅱ22	肩部の検査法		
23	柔整実技Ⅱ23	上腕部の検査法		
24	柔整実技Ⅱ24	肘部の検査法		
25	柔整実技Ⅱ25	手関節の検査法		
26	柔整実技Ⅱ26	指部の検査法		
27	柔整実技Ⅱ27	肩部の治療法		
28	柔整実技Ⅱ28	上腕部の治療法		
29	柔整実技Ⅱ29	肘部の治療法		
30	柔整実技Ⅱ30	手関節の治療法		
31	柔整実技Ⅱ31	指部の治療法		
32	柔整実技Ⅱ32	総復習		
33	柔整実技Ⅱ33	後期期末試験		
34	柔整実技Ⅱ34	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 (理論編)		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	・授業への出席が5 分の4以上を満たし た者についてのみ 試験等を実施す る。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
柔整実技Ⅲ (柔道整復実技)		柔道整復学科/2年	2023/通年	実習
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	34回	2単位 (68時間)	必須	安次嶺 慎一郎
授業の概要				
柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。				
授業終了時の到達目標				
柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。				
回	テーマ	内 容		
1	柔整実技Ⅲ 1	股関節の軟部組織損傷		
2	柔整実技Ⅲ 2	股関節の軟部組織損傷		
3	柔整実技Ⅲ 3	股関節の軟部組織損傷		
4	柔整実技Ⅲ 4	股関節の軟部組織損傷		
5	柔整実技Ⅲ 5	大腿部の軟部組織損傷		
6	柔整実技Ⅲ 6	大腿部の軟部組織損傷		
7	柔整実技Ⅲ 7	膝関節部の軟部組織損傷		
8	柔整実技Ⅲ 8	膝関節部の軟部組織損傷		
9	柔整実技Ⅲ 9	膝関節部の軟部組織損傷		
10	柔整実技Ⅲ 10	膝関節部の軟部組織損傷		
11	柔整実技Ⅲ 11	膝関節部の軟部組織損傷		
12	柔整実技Ⅲ 12	下腿部の軟部組織損傷		
13	柔整実技Ⅲ 13	下腿部の軟部組織損傷		
14	柔整実技Ⅲ 14	下腿部の軟部組織損傷		
15	柔整実技Ⅲ 15	総復習		

回	テ ー マ	内 容		
16	柔整実技Ⅲ 1 6	前期期末試験		
17	柔整実技Ⅲ 1 7	解答・解説		
18	柔整実技Ⅲ 1 8	軟部組織損傷：足部の軟部組織損傷		
19	柔整実技Ⅲ 1 9	軟部組織損傷：足部の軟部組織損傷		
20	柔整実技Ⅲ 2 0	軟部組織損傷：足部の軟部組織損傷		
21	柔整実技Ⅲ 2 1	軟部組織損傷：足部の軟部組織損傷		
22	柔整実技Ⅲ 2 2	股関節部の検査法		
23	柔整実技Ⅲ 2 3	大腿部の検査法		
24	柔整実技Ⅲ 2 4	膝関節部の検査法		
25	柔整実技Ⅲ 2 5	下腿部の検査法		
26	柔整実技Ⅲ 2 6	足部の検査法		
27	柔整実技Ⅲ 2 7	股関節部の治療法		
28	柔整実技Ⅲ 2 8	大腿部の治療法		
29	柔整実技Ⅲ 2 9	膝関節部の治療法		
30	柔整実技Ⅲ 3 0	下腿部の治療法		
31	柔整実技Ⅲ 3 1	足部の治療法		
32	柔整実技Ⅲ 3 2	総復習		
33	柔整実技Ⅲ 3 3	後期期末試験		
34	柔整実技Ⅲ 3 4	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	



作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅱ（臨床実習）		柔道整復学科/2年	2023/通年	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	23回	1単位（45時間）	必須	外部実習
授業の概要				
柔道整復師として患者に対する心得と臨床に必要な基本的手技、整復法、固定法などを見学して学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
柔道整復師として患者に対する心得と臨床に必要な基本的手技、整復法、固定法などを見学して学ぶ。				
回	テーマ	内容		
1	臨床実習Ⅱ 1	ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明		
2	臨床実習Ⅱ 2	付属接骨院での見学実習		
3	臨床実習Ⅱ 3	付属接骨院での見学実習		
4	臨床実習Ⅱ 4	付属接骨院での見学実習		
5	臨床実習Ⅱ 5	付属接骨院での見学実習		
6	臨床実習Ⅱ 6	付属接骨院での見学実習		
7	臨床実習Ⅱ 7	付属接骨院での見学実習		
8	臨床実習Ⅱ 8	付属接骨院での見学実習		
9	臨床実習Ⅱ 9	付属接骨院での見学実習		
10	臨床実習Ⅱ 10	付属接骨院での見学実習		
11	臨床実習Ⅱ 11	付属接骨院での見学実習		
12	臨床実習Ⅱ 12	付属接骨院での見学実習		
13	臨床実習Ⅱ 13	付属接骨院での見学実習		
14	臨床実習Ⅱ 14	付属接骨院での見学実習		
15	臨床実習Ⅱ 15	付属接骨院での見学実習		

回	テ ー マ	内 容		
16	臨床実習Ⅱ 1 6	付属接骨院での見学実習		
17	臨床実習Ⅱ 1 7	付属接骨院での見学実習		
18	臨床実習Ⅱ 1 8	付属接骨院での見学実習		
19	臨床実習Ⅱ 1 9	付属接骨院での見学実習		
20	臨床実習Ⅱ 2 0	付属接骨院での見学実習		
21	臨床実習Ⅱ 2 1	付属接骨院での見学実習		
22	臨床実習Ⅱ 2 2	付属接骨院での見学実習		
23	臨床実習Ⅱ 2 3	付属接骨院での見学実習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
総合演習 2		柔道整復学科/2年	2023/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	比嘉 幹人
授業の概要				
スポーツに携わる者が知っておくべき基礎知識について学ぶ。様々なトレーニング方法がもたらす効果を理解し、目的に応じてトレーニング方法を選択し、処方できるようになる。				
授業終了時の到達目標				
スポーツに携わる者が知っておくべき基礎知識について学ぶ。様々なトレーニング方法がもたらす効果を理解し、目的に応じてトレーニング方法を選択し、処方できるようになる。				
回	テーマ	内 容		
1	総合演習Ⅱ 1	トレーニングの運営と情報活用		
2	総合演習Ⅱ 2	トレーニングの運営と情報活用		
3	総合演習Ⅱ 3	運動指導者のための情報収集と活用		
4	総合演習Ⅱ 4	運動指導者のための情報収集と活用		
5	総合演習Ⅱ 5	筋力トレーニングの実際		
6	総合演習Ⅱ 6	筋力トレーニングの実際		
7	総合演習Ⅱ 7	筋力トレーニングの実際		
8	総合演習Ⅱ 8	筋力トレーニングの実際		
9	総合演習Ⅱ 9	パワー向上トレーニングの実際		
10	総合演習Ⅱ 10	パワー向上トレーニングの実際		
11	総合演習Ⅱ 11	パワー向上トレーニングの実際		
12	総合演習Ⅱ 12	パワー向上トレーニングの実際		
13	総合演習Ⅱ 13	パワー向上トレーニングの実際		
14	総合演習Ⅱ 14	パワー向上トレーニングの実際		
15	総合演習Ⅱ 15	前期期末試験		

回	テ ー マ	内 容		
16	総合演習Ⅱ 1 6	持力向上トレーニングの実際		
17	総合演習Ⅱ 1 7	持力向上トレーニングの実際		
18	総合演習Ⅱ 1 8	持力向上トレーニングの実際		
19	総合演習Ⅱ 1 9	スピード向上トレーニングの実際		
20	総合演習Ⅱ 2 0	スピード向上トレーニングの実際		
21	総合演習Ⅱ 2 1	スピード向上トレーニングの実際		
22	総合演習Ⅱ 2 2	スピード向上トレーニングの実際		
23	総合演習Ⅱ 2 3	柔軟性向上トレーニング及びウォームアップの実際		
24	総合演習Ⅱ 2 4	柔軟性向上トレーニング及びウォームアップの実際		
25	総合演習Ⅱ 2 5	柔軟性向上トレーニング及びウォームアップの実際		
26	総合演習Ⅱ 2 6	柔軟性向上トレーニング及びウォームアップの実際		
27	総合演習Ⅱ 2 7	総復習		
28	総合演習Ⅱ 2 8	総復習		
29	総合演習Ⅱ 2 9	後期期末試験		
30	総合演習Ⅱ 3 0	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床柔道整復学Ⅳ（臨床柔道整復学）		柔道整復学科/2年	2023/通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	34回	4単位（68時間）	必須	安次嶺 慎一郎 接骨院にて従事

## 授業の概要

1年次で学んだ柔整基礎理論を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、高度な専門知識の修得を目指すものである。

## 授業終了時の到達目標

1年次で学んだ柔整基礎理論を基盤として、柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、高度な専門知識の修得を目指すものである。

回	テーマ	内容
1	臨床柔道整復学Ⅳ 1	ガイダンス
2	臨床柔道整復学Ⅳ 2	骨盤骨単独骨折
3	臨床柔道整復学Ⅳ 3	骨盤骨単独骨折
4	臨床柔道整復学Ⅳ 4	骨盤骨輪骨折
5	臨床柔道整復学Ⅳ 5	骨盤骨輪骨折
6	臨床柔道整復学Ⅳ 6	大腿骨近位端部骨折
7	臨床柔道整復学Ⅳ 7	大腿骨近位端部骨折
8	臨床柔道整復学Ⅳ 8	大腿骨近位端部骨折
9	臨床柔道整復学Ⅳ 9	大腿骨骨幹部骨折
10	臨床柔道整復学Ⅳ 10	大腿骨骨幹部骨折
11	臨床柔道整復学Ⅳ 11	大腿骨骨幹部骨折
12	臨床柔道整復学Ⅳ 12	大腿骨遠位端部骨折
13	臨床柔道整復学Ⅳ 13	大腿骨遠位端部骨折
14	臨床柔道整復学Ⅳ 14	大腿骨遠位端部骨折
15	臨床柔道整復学Ⅳ 15	まとめ

回	テ ー マ	内 容		
16	臨床柔道整復学Ⅳ 1 6	前期期末試験		
17	臨床柔道整復学Ⅳ 1 7	解答・解説		
18	臨床柔道整復学Ⅳ 1 8	膝蓋骨骨折・分裂膝蓋骨		
19	臨床柔道整復学Ⅳ 1 9	下腿骨近位端部骨折		
20	臨床柔道整復学Ⅳ 2 0	下腿骨近位端部骨折		
21	臨床柔道整復学Ⅳ 2 1	下腿骨骨幹部骨折		
22	臨床柔道整復学Ⅳ 2 2	下腿骨骨幹部骨折		
23	臨床柔道整復学Ⅳ 2 3	下腿骨遠位端部骨折		
24	臨床柔道整復学Ⅳ 2 4	下腿骨遠位端部骨折		
25	臨床柔道整復学Ⅳ 2 5	足関節の脱臼骨折		
26	臨床柔道整復学Ⅳ 2 6	足関節の脱臼骨折		
27	臨床柔道整復学Ⅳ 2 7	足関節の脱臼骨折		
28	臨床柔道整復学Ⅳ 2 8	足根骨骨折		
29	臨床柔道整復学Ⅳ 2 9	足根骨骨折		
30	臨床柔道整復学Ⅳ 3 0	中足骨骨折		
31	臨床柔道整復学Ⅳ 3 1	中足骨骨折		
32	臨床柔道整復学Ⅳ 3 2	足指骨骨折		
33	臨床柔道整復学Ⅳ 3 3	後期期末試験		
34	臨床柔道整復学Ⅳ 3 4	解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	